



父島

自然遺産ガイド



父島の世界自然遺産としての価値

生態系：生物進化の過程を示す見本



東南アジアや沖縄から島の中のさまざまな場所に広がっていく環境に適した形へと進化する

小笠原諸島では、海によって隔てられた小さな島の中で様々な形へと進化した多くの固有種が見られ、進行中にある動物の進化の過程を目の当たりにできます。

カタツムリの仲間

カタツムリの仲間は、小笠原の中でも様々な進化を遂げた生きものの代表例です。9割以上が固有種となっています。



特にカタマイマイの仲間は、樹上や地面など生活場所に合わせて様々な形や色へと進化しました。

木の上で生活する樹上性の種。色は明るく、殻の背が高く、小型。

木の幹で生活する半樹上性の種。色は少し明るく、殻は平べったく、小型。

地面の上で生活する地上性の種。色は暗く、殻は平べったい。

カタマイマイの仲間の大きさ

小笠原が世界自然遺産に登録された理由

小笠原では、海によって隔てられた小さな島において、独自の進化をとげた多くの固有の生きものや、それらが織りなす生態系を見ることができます。このことが高く評価され、平成23年6月に世界自然遺産に登録されました。



父島の生きものたち

小笠原諸島では、小さな島の中に多くの固有種が分布しています。父島はオガサワラオオコウモリやアカガシラカラスバトの重要な繁殖地です。



アカガシラカラスバト
ハトの仲間で、頭が紫色がかかった赤褐色をしている。父島は重要な繁殖地。天然記念物。



オガサワラオオコウモリ
陸上に生息する唯一の哺乳類で、父島は100～160頭が生息している重要な繁殖地。天然記念物。



オガサワラゼミ
小笠原諸島に生息する唯一のゼミで秋季に発生。天然記念物。



ムニンツツジ
父島にのみ生息し、自生する野生株は1株のみ。

変化しつつある生態系

人が持ち込んだ動植物（外来種）の影響で小笠原本来の生態系が変化しつつあります。



外から人や生きものがやってくる前の、小笠原本来の生態系

外から人や生きものがやってくる後の、変化しつつある生態系

現在、小笠原では本来の生態系を取り戻すための様々なとりくみが行われています。

詳しくは裏面をご覧ください

お問い合わせ

東京都 小笠原支庁土木課
〒100-2101 小笠原村父島字西町
TEL: 04998-2-2123
FAX: 04998-2-2302

平成24年3月 制作・発行：東京都小笠原支庁
登録番号(23)8 写真提供：千葉聡、安井隆弥
編集：(株)ブレック研究所
絵 & デザイン：羽馬有紗

父島自然遺産マップ



道路
歩道

小笠原の自然を守るための約束

外来種を侵入させないために

え？
ダメ？

土には、植物の種や小さな虫がひそんでいることが多いです。

植物や動物、土や土のついた苗を持ち込まないように、ご協力をお願いします。

ストップ

おがさわら丸
OGASAWARA MARU

外来種を広げないために

泥がついているときには、ブラシなどを使って泥をきれいに落としてから出かけるようにしましょう。

服にくっつく種があるよ。

小動物

土

虫

スポンのすそはおりまけないようにしましょう。

くつのもチェック。

固有種のすみかを守るために

決められたルートから踏み出さないようにしましょう。

森は生きものたちの生活の場所。

南島では、石灰岩でできた珍しい地形が見られます。特に、石灰岩が溶けてできたカルスト地形が海中に沈んだ「沈水カルスト」と呼ばれる地形は、とても美しい光景です。

沈水カルスト

クマネズミ対策

南島

上陸にはガイドの同行が必要です。

兄島

モクマオウ対策

ノヤギ対策

クマネズミ対策

乾性低木林

カタツムリの仲間

オガサワラトンボ

オガサワラノスリ

観光協会

ビジターセンター

アノールトラップ

グリーンアノール対策

靴底洗浄

乾性低木林

カタツムリの仲間

モクマオウ対策

ノヤギ対策

ノネコ対策

アカガシラカラスバト

アカガシラカラスバト
サンクチュアリ

アカガシラカラスバトが繁殖しやすい環境を守るため、重要な繁殖地である東平に保護地域を設置しています。入林にはガイドの同行が必要です。

オガサワラ
オオコウモリ

ガイドに関するお問い合わせはこちらへ

小笠原村観光協会 (B-しっぷ内)

☎ 04998-2-2587 無休

🕒 8:00 ~ 12:00, 13:30 ~ 17:00

詳しく知りたい人はこちらへ

小笠原ビジターセンター

☎ 04998-2-3001

🕒 開館日 おがさわら丸入港中 (観光シーズンは休まず開館)

🕒 8:30 ~ 17:00

ニューギニアヤリカタリクウスムシ

カタツムリの仲間を食べるニューギニアヤリカタリクウスムシやその卵が、靴底にくっついて父島から母島に広がらないように、父島のははしま丸船客待合所の前に、海水を含ませたマットを設置し、靴底を洗うように呼びかけています。

小笠原本来の生態系をとりもどすための主なとりくみ

ノヤギ

希少な固有植物を食べ、植生を踏み荒らすノヤギ。柵への追い込みや、銃器を使って排除しています。

ノネコ

チッ!

東平周辺では、ノネコがアカガシラカラスバトを襲うことがないように柵を設置しています。また、父島全体でもカゴわなを使ってノネコを排除しています。

グリーンアノール

グリーンアノールは人の住む父島・母島だけに生息します。父島から属島へ渡ることのないように、港の周辺で重点的にトラップを用いて捕獲をしています。

モクマオウ

モクマオウの落葉が地面を覆い、他の植物が発芽して育てない状態の林をもとに戻すために、薬剤などを用いた駆除を進めています。

クマネズミ

クマネズミは海鳥や植物、カタツムリの仲間などを食べます。一部の属島では、殺鼠剤(ネズミ以外への影響がほとんどない毒エサ)を使って排除が進められています。